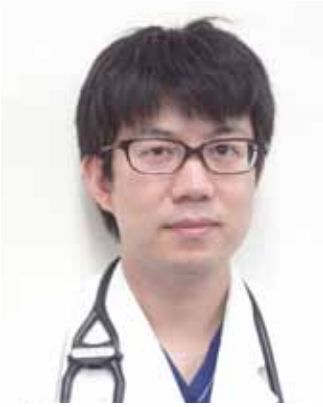


先輩研修医からのメッセージ

Message 4



実践的に手技を経験出来る環境

永井 利樹

今これを読んでいるあなたは、臨床研修をどこでしょうか悩んでいることと思います。様々な病院がプログラムに工夫を凝らしより良い研修を行おうと考えていると思いますが、研修の目的は幅広い臨床能力の獲得にあります。この「幅広い臨床能力」とはその後の専門医としての礎であり、礎がしっかりしたものであるほど、専門医としてもより極めることができると考えています。

神戸中央病院では、基本的な手技を身につける機会が豊富にあり、さらにそれ以上の手技に対しても、経験させて貰えます。また、各科の垣根が低いために、気軽に相談し指導を受けることができます。指導期間しか教えて貰えないと、終わってしばらく経てば忘れてしまうかもしれませんが、その後も指導を気軽に受けることが可能なため、しっかりと身につけることができます。また6人前後の研修医仲間がお互いに教え合いながら、切磋琢磨できる環境が整っています。是非一度見学に来てみて下さい。

Message 5



臨床医となるための研修

草野 淳

初めまして。初期研修医1年目を終えようとしている草野淳と申します。今この文章をよんで頂いている学生さんは自分の将来に思いを馳せ、学術的に進んでいきたい、臨床を頑張っていきたい等々考えておられると思います。そんな方々が進路を選ぶ上で少しでも参考にして頂けたらと思い文章を書かせて頂いています。

四月初め、右も左も分からない状態であろうと1人の医師として可能な限り手技を行うのは初期研修であり、必要があれば患者さんや家族に説明を行うのも初期研修医であることがあります。もちろん指導医の指導の下ではありますが。春の時点では疾患の勉強、手技を前にして医療を行うことへのプレッシャーで大変なことが多々あります。神戸中央病院では春の時点からそのような立場で研修が始まります。初期研修医師として辛い、苦しいと思う時期は必ずあります。しかし、夏を過ぎたあたりで、その経験が生きていると実感する瞬間が来ます。臨床医として成長したいと考えておられる方には貴重な経験を積むことのできる病院であると自負しています。

文面上ではよいことをつらつらと書いていますが、ぜひ一度自身の目で研修医はもちろん、その他の先生がどのように医療に臨んでいるのか確かめに来てください。最大限のもてなしで良い面、悪い面を含めてしっかりと病院を紹介したいと思っています。

Message 6



自由で実践的な研修システム

田谷 俊彦

神戸中央病院で初期研修を開始して早1年が経過しました。医師としてまだまだ発展途上ではありますが振り返ると忙しくも充実した一年でした。注射ですらまともに来なかった4月のころと比べると、救急当直で初期対応を1人で出来るまでに成長できたのはひとえに指導医の先生方や看護師の皆様のお陰だと感謝しております。

さて神戸中央病院は病床数約400床、同期は6人前後とそれほど規模の大きい病院ではありません。ですが基本的には各科ローテーションする研修医は一名ですので、興味のある症例や手技を経験する機会には恵まれています。また、研修中の科に限らずどの先生も時間があれば快く相談に乗ってくださる環境が整っているため単当患者の治療アセスメントについて独りで悩むことはまずありません。また研修プログラムも自由に組み立てられるためより自分の理想に向けた研修を受けることが可能です。実践的な臨床を経験するという側面では当院を選んで間違いはなかったと確信しています。

この冊子を取ってくださっている医学生の皆様の中にはまだ研修病院の選択に悩んでいる方も多くおられると思います。主体的な研修をしたいという方にはぜひ一度見学をお勧めいたします。

先輩研修医からのメッセージ

Message 3



自ら判断し主体的に動く研修

池田 亮介

この冊子を手にとっている皆さんは医師と言う職業に対してどのような理想を持っているでしょうか。専門性を追求し最先端の高度な医療がしたい、総合診療として地域に根ざした医療がしたいなど、人によって様々な考えがあると思います。しかし将来どのような道に進むにしたとしても、自分の思い描いた理想に近づくためには細分化された各科の横断的な知識が必要不可欠です。

神戸中央病院ではローテートする各科の指導医の下で、医師として必要な知識に加えてより高度な専門知識や手技が習得できるようなプログラムが整備されています。また診療科同士の垣根がほぼなく、困ったことがあればローテート中以外の科の指導医に相談できるという環境があります。これは当院の特徴でもあり、専門的知識と横断的知識を最大限習得できるような環境が整っています。

研修医の数も10人前後であるためコメディカルを含め病院の関係者は研修医の顔と名前が一致するためかつ各科に配属されるのは原則一人であるため症例や手技についても研修医が主体となって行う機会に恵まれています。

研修医であるとは言っても医師免許を持って働くのですから学生時代の見学や座学中心の実習ではない、自ら判断し主体的に動くという研修ができておりとても充実した生活を送っています。意欲的な皆さんの積極的な応募をお待ちしています。

Message 4



新人王になれる機会は一期一会

李 相沅

元々韓国でも医師でありましたが、日本医師国試に合格し、初期研修医になってもう一度医師としての原点に立つ機会を得ることになりました。韓国での研修経験に基づいて大学病院よりは400-500病床の病院の方がより実践的な初期研修が受けられると考えました。この病院では各科にほぼ1人の研修医が配定されるため、指導医より個人教習を受けるかのごとく、初期研修医として臨床経験を積み重ねることができます。初期研修医としてマスターすべき手技もやらせてもらえ、自分の意欲次第に様々な手技を経験し熟達できます。その上、研修スケジュールを自分で組み立てられ、自身が目標としている医師像を自分で作り上げて行けることがこの病院のもっともな魅力であると考えています。現役運動選手である限り、MVPになり得る機会は毎年ありますが、新人王になれる機会はプロデビュー後の初1年間のみ。もう一度新人医になって、この病院で充実した初1年を過ごせたことは私の人生にとって何物にも換えがたい経験でありました。研修病院としてこの病院を選んで後悔したことはありません。医学部の学生にも一度見学をお勧めします。